

2021年度経済学部卒業時アンケート

調査対象：534名（2021年度9月卒業生28名、2021年度3月卒業生506名）

調査実施期間：2021年9月1日～9月30日、2022年3月1日～3月31日

回答者数：447名（2021年度9月12名、2021年度3月435名）

回答率：83.7%

2021年度3月卒業時アンケート結果概要

- ① 入学後の総合的な満足度は、いずれの項目も9割前後の学生が満足している（「満足」+「どちらかという満足」）。→図1、図2
- ② DPについては、全項目で8割以上の学生が「かなり身についた」ないし「ある程度身についた」と実感している。学科の差異はあまりない。→図3、図4 ※全項目で「全く身につかなかった」と答えたのは5%未満。

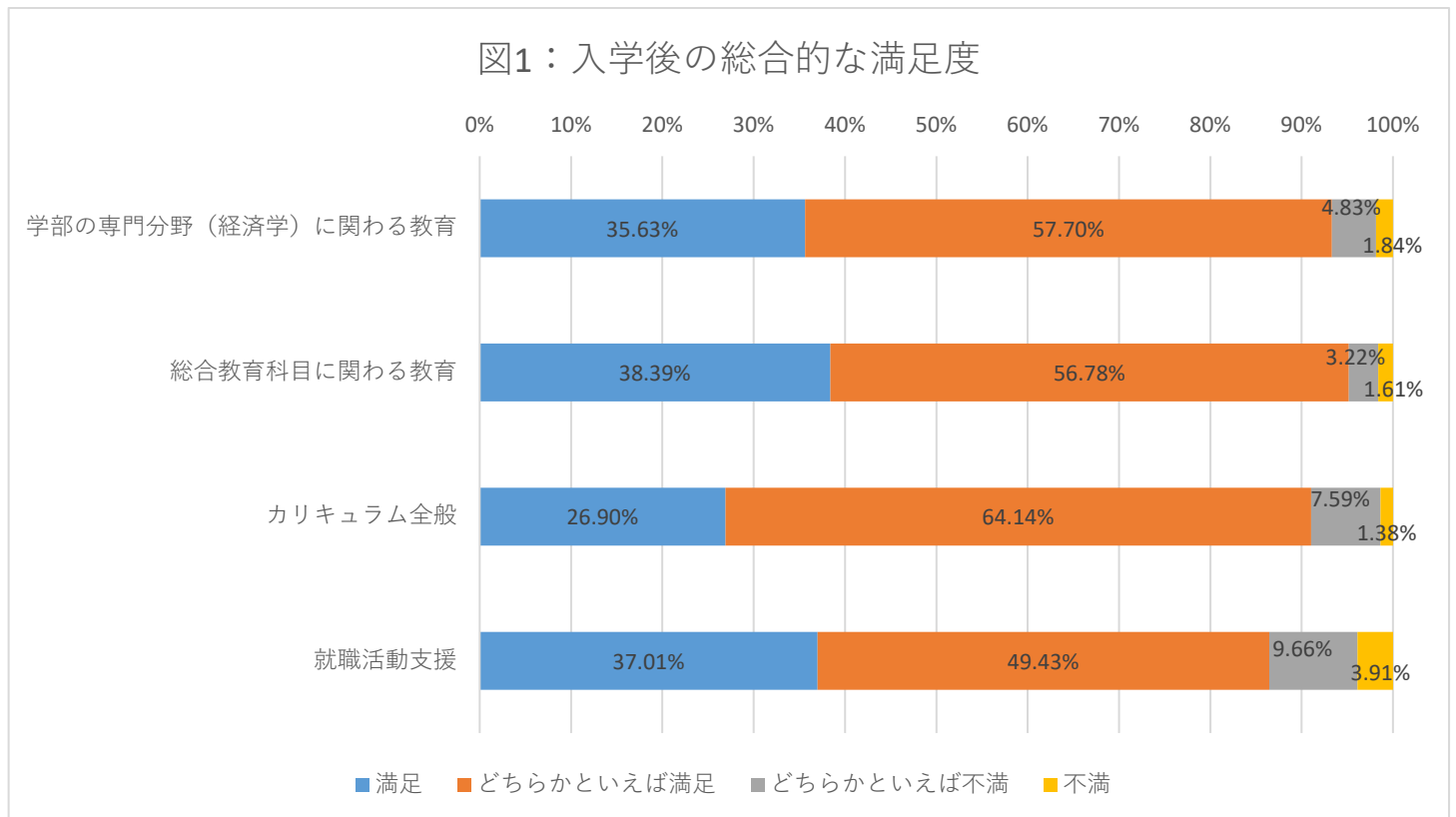


図2：ゼミ満足度（ゼミ履修者のみ）

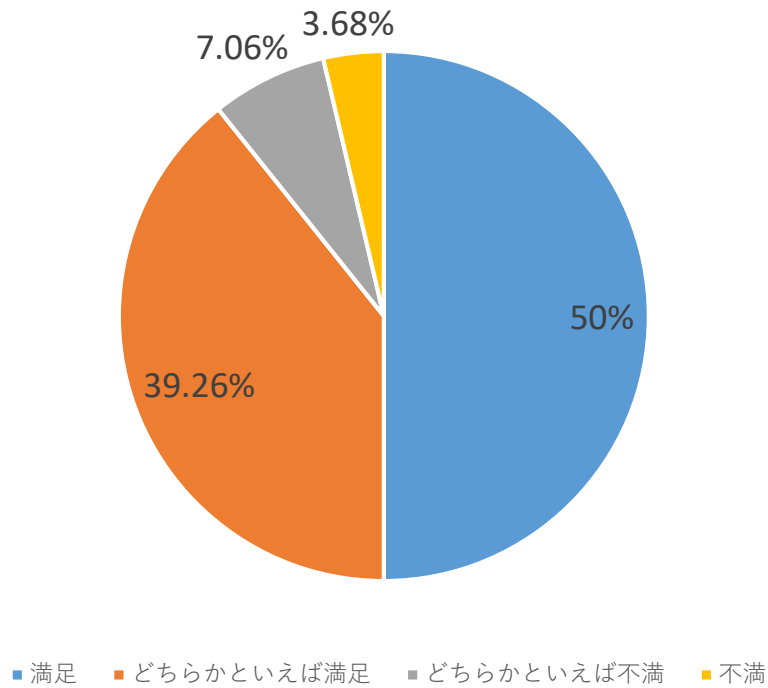


図3：大学での学習を通じて身につけた能力、スキル

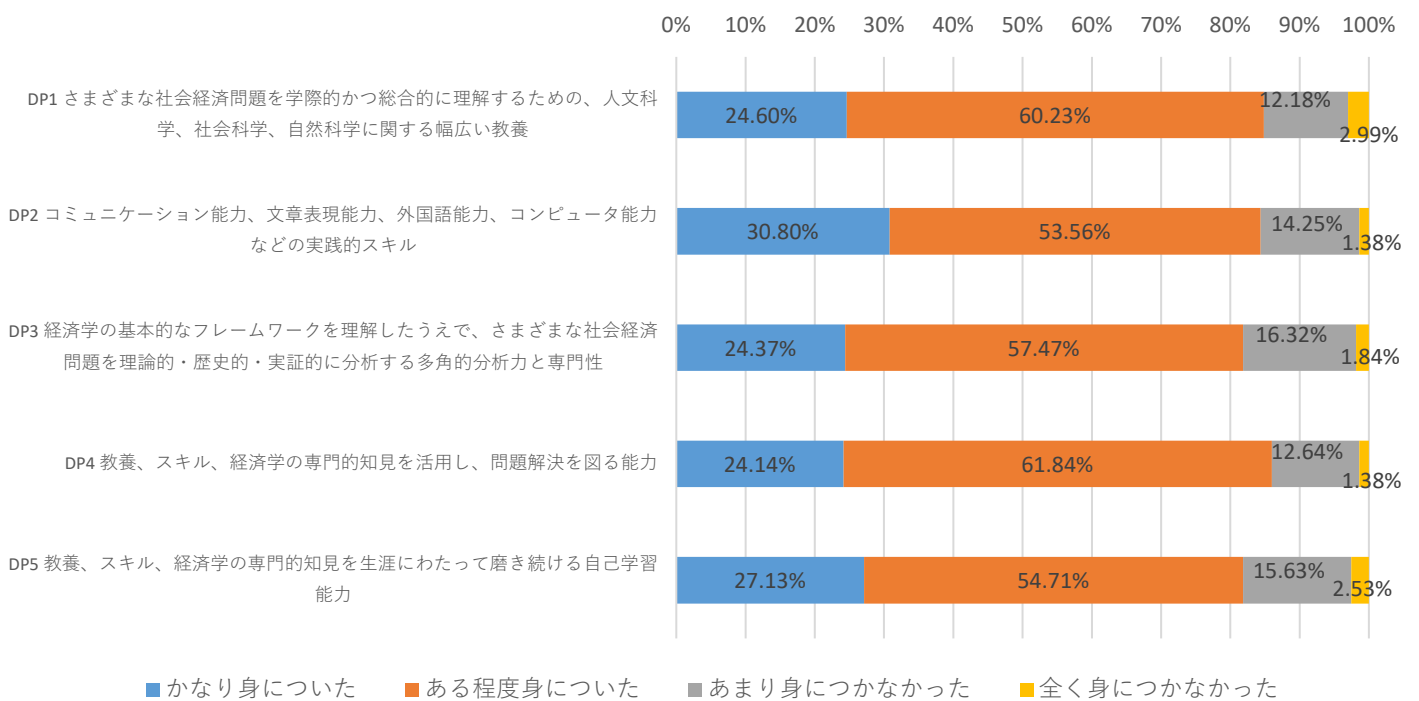
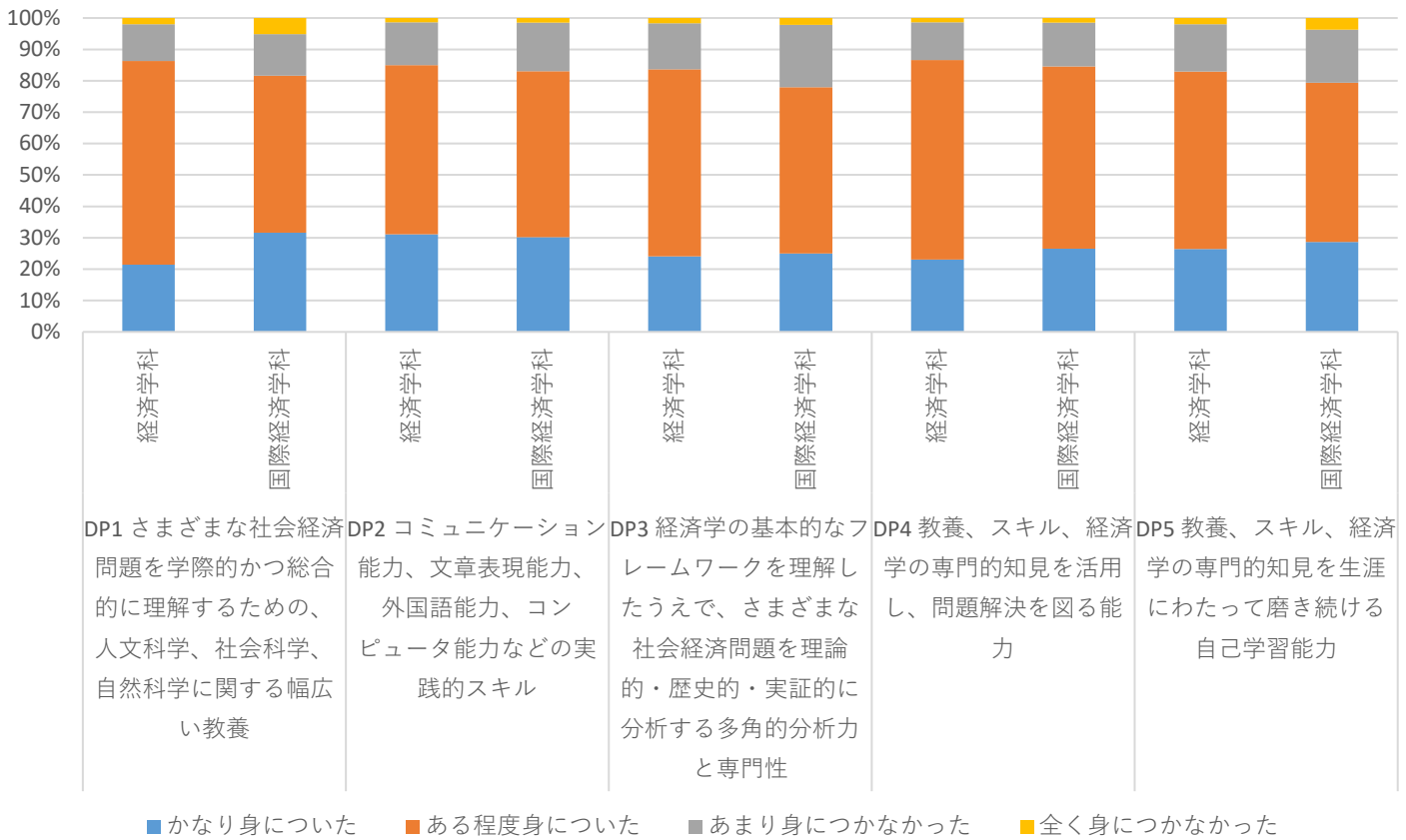


図4：大学での学習を通じて身につけた能力、スキル（学科別）



DP1 さまざまな社会経済問題を学際的かつ総合的に理解するための、人文科学、社会科学、自然科学に関する幅広い教養

DP2 コミュニケーション能力、文章表現能力、外国語能力、コンピュータ能力などの実践的スキル

DP3 経済学の基本的なフレームワークを理解したうえで、さまざまな社会経済問題を理論的・歴史的・実証的に分析する多角的分析力と専門性

DP4 教養、スキル、経済学の専門的知見を活用し、問題解決を図る能力

DP5 教養、スキル、経済学の専門的知見を生涯にわたって磨き続ける自己学習能力

2021 年度 9 月卒業時アンケート結果概要

- ① 入学後の総合的な満足度は非常に高く、特に「総合教育科目に関わる教育」「カリキュラム全般」の 2 項目では回答者全員が「満足」と回答している（「満足」+「どちらかといえば満足」）。→図 1、図 2
- ② 各 DP については、8 割を超える卒業生が「身についた」と回答している（「かなり身についた」+「ある程度身についた」）。→図 3

図1：入学後の総合的な満足度

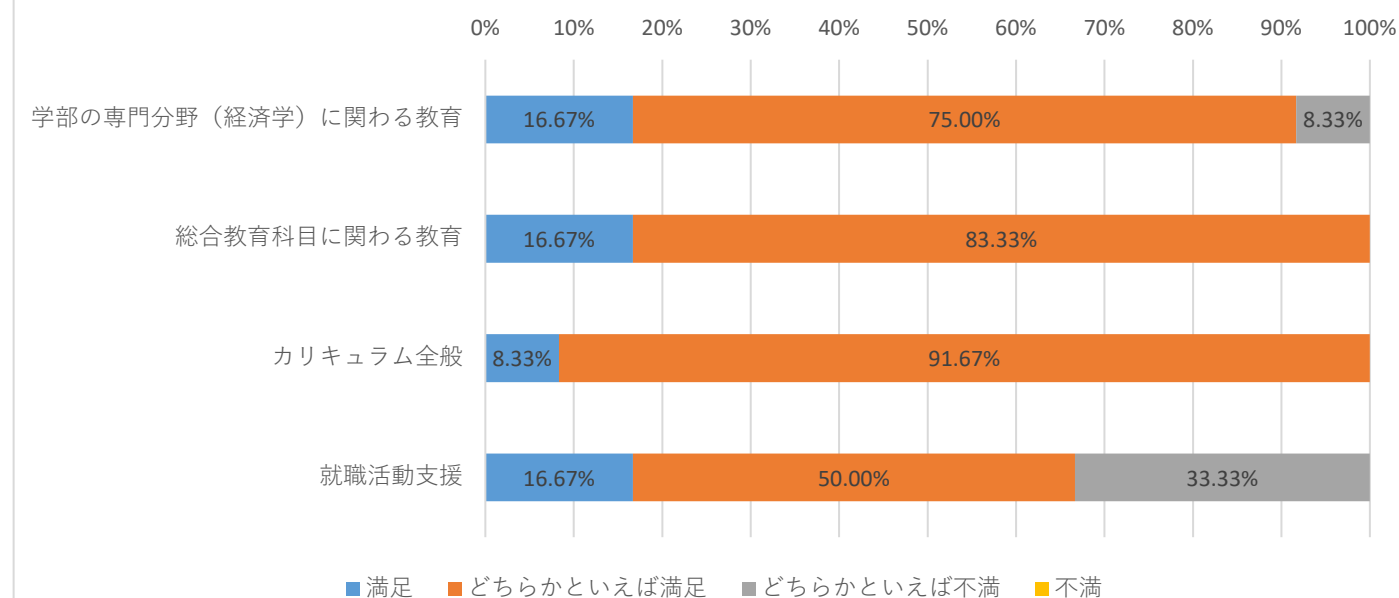


図2：ゼミ満足度（ゼミ履修者のみ）

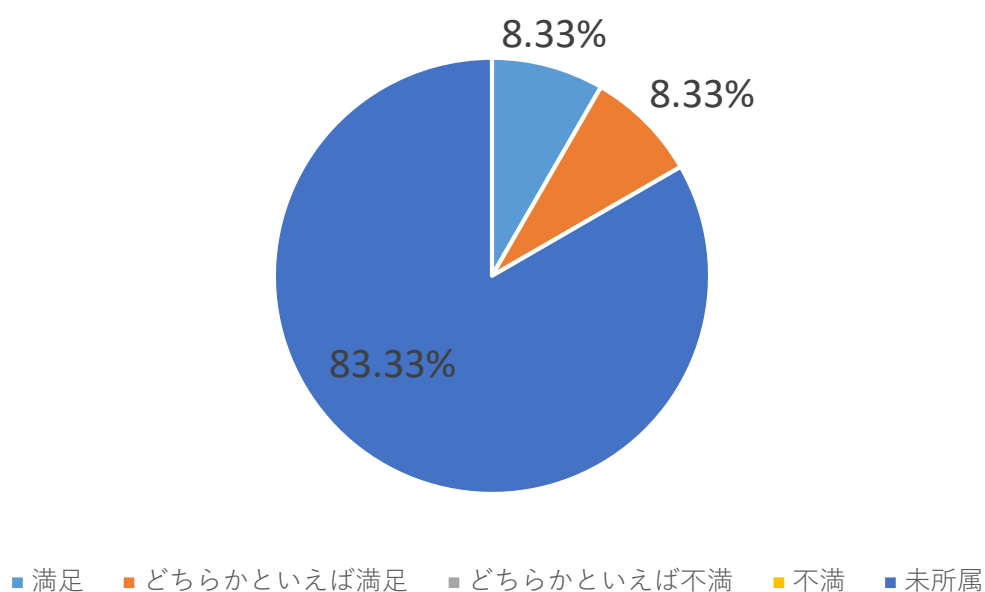
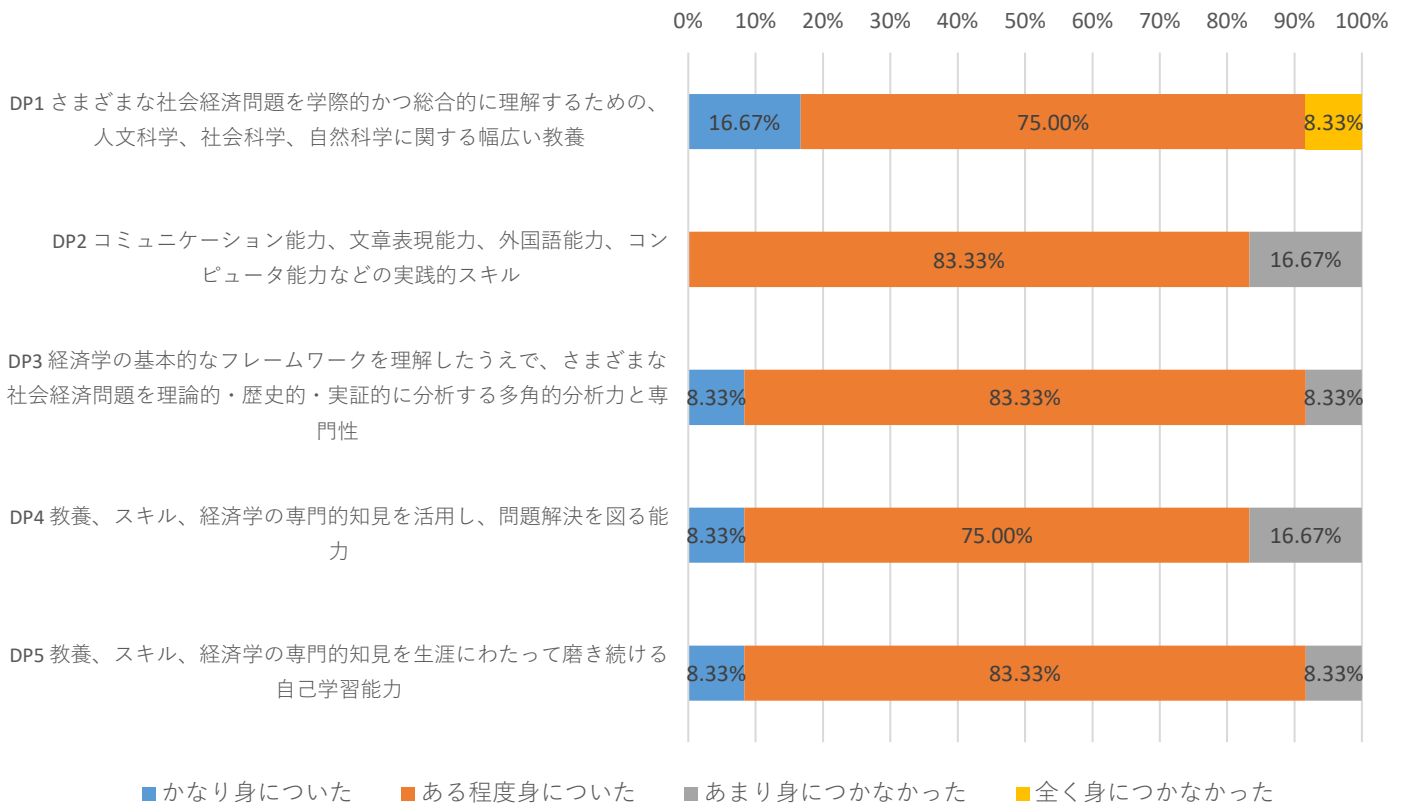


図3：大学での学習を通じて身につけた能力、スキル



2021年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ

調査対象：562名（2021年度9月卒業生20名、2021年度3月卒業生542名）

調査実施期間：2021年9月1日～9月15日、2022年3月3日～3月31日

回答者数：478名（2021年度9月8名、2021年度3月470名）

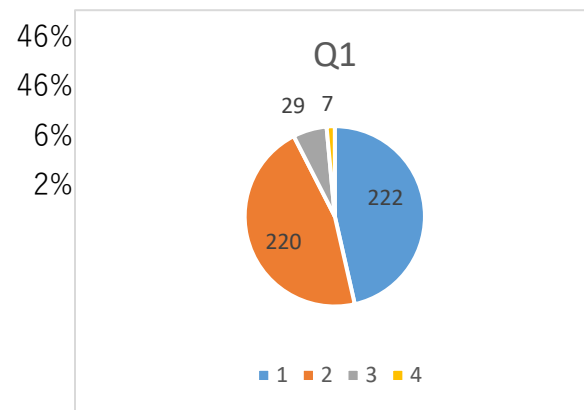
回答率：85.1%

以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

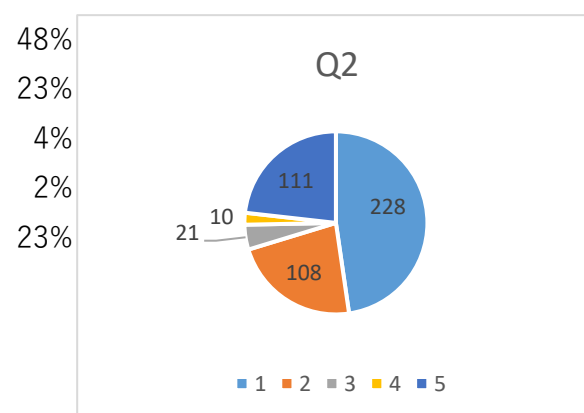
1. 満足	222
2. どちらかといえば満足	220
3. どちらかといえば不満	29
4. 不満	7
計	478



Q2

●ゼミ

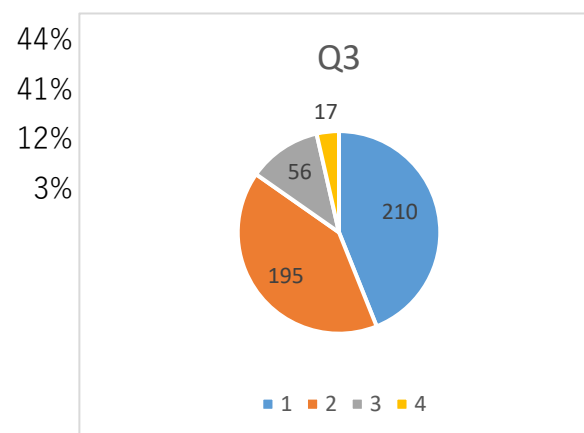
1. 満足	228
2. どちらかといえば満足	108
3. どちらかといえば不満	21
4. 不満	10
5. 未所属	111
計	478



Q3

●就職活動支援

1. 満足	210
2. どちらかといえば満足	195
3. どちらかといえば不満	56
4. 不満	17
計	478



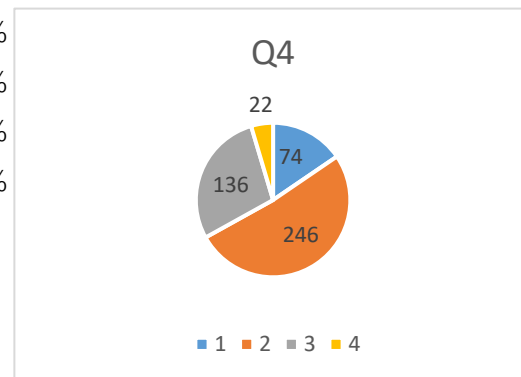
Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

1. かなり身についた	74
2. ある程度身についた	246
3. あまり身につかなかった	136
4. 全く身につかなかった	22
計	478

16%
51%
28%
5%

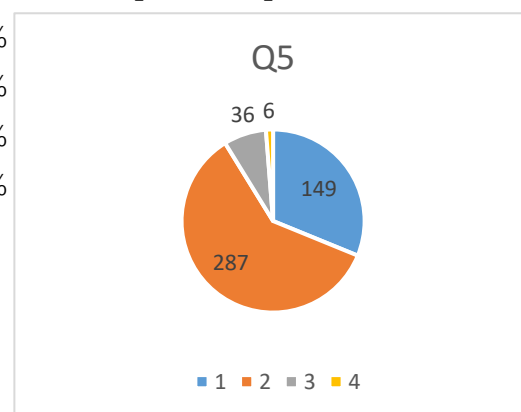


Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

1. かなり身についた	149
2. ある程度身についた	287
3. あまり身につかなかった	36
4. 全く身につかなかった	6
計	478

31%
60%
8%
1%

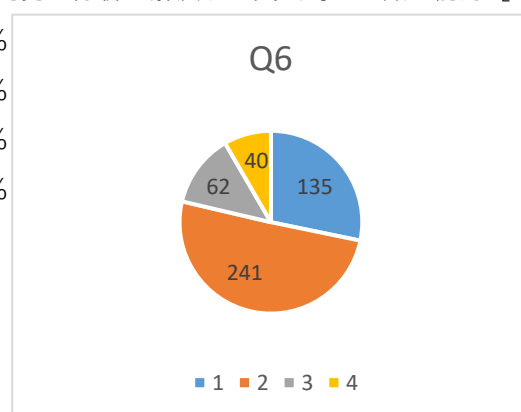


Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	135
2. ある程度身についた	241
3. あまり身につかなかった	62
4. 全く身につかなかった。	40
計	478

28%
51%
13%
8%



【2021 年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2021 年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みたい。

1. 調査概要

まず、調査概要は以下の通りである。

調査対象：562 名（2021 年度 9 月卒業生 20 名、2021 年度 3 月卒業生 542 名）

調査実施期間：2021 年 9 月 1 日～9 月 15 日、2022 年 3 月 3 日～3 月 31 日

回答者数：478 名（2021 年度 9 月 8 名、2021 年度 3 月 470 名）

回答率：85.1%

2. 分析結果

（1）入学後の総合的な満足度

「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）」、「ゼミ（Q2）」、「就職活動支援（Q3）」の各質問項目についての調査結果をみてみたい。

（2）学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）

当該項目では、「満足」が 46%（2020 年度 39%：以下同様）、「どちらかといえば満足」が 46%（53%）、「どちらかといえば不満」が 6%（8%）、「不満」が 2%（1%）という結果となった。92%（92%）が「満足」「どちらかといえば満足」という肯定的評価であり、昨年度同様に当該項目での満足度は高いといえる。

（3）ゼミ（Q2）

当該項目では、「満足」が 48%（39%）、「どちらかといえば満足」が 23%（25%）、「どちらかといえば不満」が 4%（8%）、「不満」が 2%（1%）、「未所属」が 23%（27%）という結果となった。

ゼミ教育については、回答者の 23%がゼミ未所属であり、ゼミ所属学生に限定したとき、「満足」は 62%（53%）、「どちらかといえば満足」が 29%（34%）となり、ゼミ所属生は総じて満足して卒業したと考えられる。

未所属学生が 4 年次だけゼミ未所属なのか、2 年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、2020 年度の結果（ゼミ未所属 27%）から 4%減少している。今後もゼミ未所属者を減らしていく取り組みが検討事項としてあげられよう。

（4）就職活動支援（Q3）

当該項目では、「満足」が 44%（35%）、「どちらかといえば満足」が 41%（59%）、「どちらかといえば不満」が 12%（1%）、「不満」が 3%（5%）という結果となり、85%（94%）が肯定的評価であった。ただし、「満足」評価が上がった一方、肯定的評価は全体として下

がっており、「どちらかといえば不満」「不満」という否定的評価が 15% (6%) と 2020 年度の結果より増えている。よって次年度において特に注視する項目と位置づけられよう。

(5) 大学入学時と比較した知識・能力習得状況

次に、「教養と外国語 (Q 4)」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 (Q 5)」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 (Q 6)」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果をみてみたい。

(6) 教養と外国語 (Q 4)

当該項目では、「かなり身についた」が 16% (9%)、「ある程度身についた」が 51% (52%)、「あまり身につかなかった」が 28% (31%)、「全く身につかなかった」が 5% (8%) という結果になった。否定的評価が 30%を超えていることもあり、さらなる取り組みが必要であると考えられる。

(7) 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目] (Q 5)

当該項目では、「かなり身についた」が 31% (29%)、「ある程度身についた」が 60% (60%)、「あまり身につかなかった」が 8% (9%)、「全く身につかなかった」が 1% (1%) という結果になった。肯定的評価の割合が 91% (89%) であり、十分な成果が得られたと考えられる。

(8) 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ] (Q 6)

当該項目では、「かなり身についた」が 28% (22%)、「ある程度身についた」が 51% (50%)、「あまり身につかなかった」が 13% (22%)、「全く身につかなかった」が 8% (6%) という結果になった。肯定的評価の割合が 79%となり、ゼミなどによりある程度の成果が見られたと考えられる。

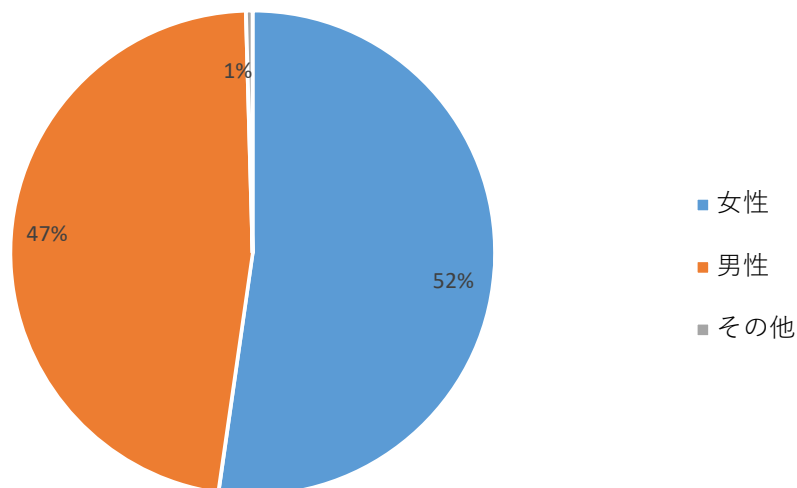
3. 総括

上記のように、2021 年度の卒業生の満足度及び達成度に関する卒業時の意識としては、総じて高い評価が得られているといえる。今後の課題としては、教養と外国語に対する到達度をあげることや就職活動支援の傾向を注視すること、それ以外でも高評価に満足することなく、高評価を維持しつつも、さらなる向上に努力を傾注していくことが肝要であろう。

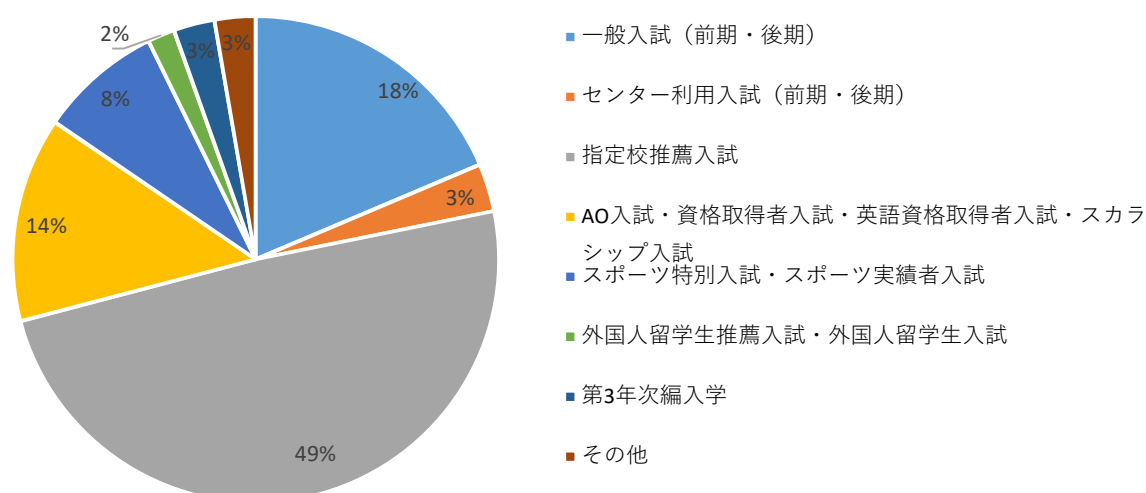
2021年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象： 2021年9月卒業生 4名、2021年度3月卒業生 246名
 調査実施期間： 2021年9月1日～9月30日、2022年3月1日～3月30日
 回答数： 220件
 回答率： 88.0%

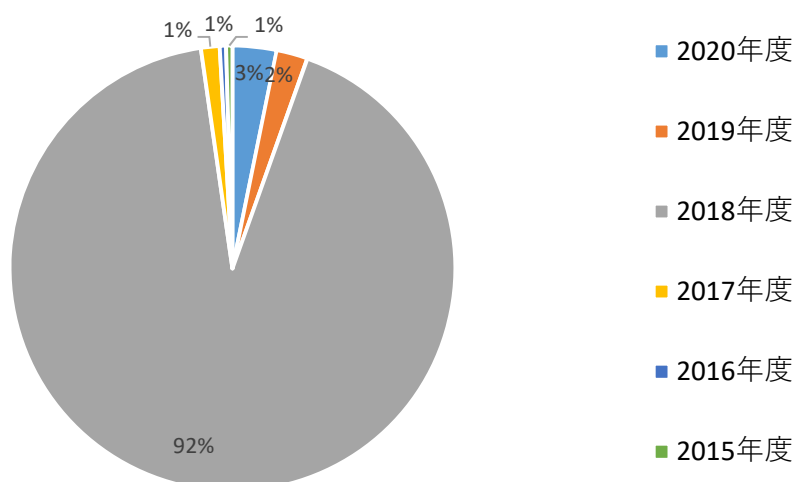
設問1 あなたの性別をお答えください。



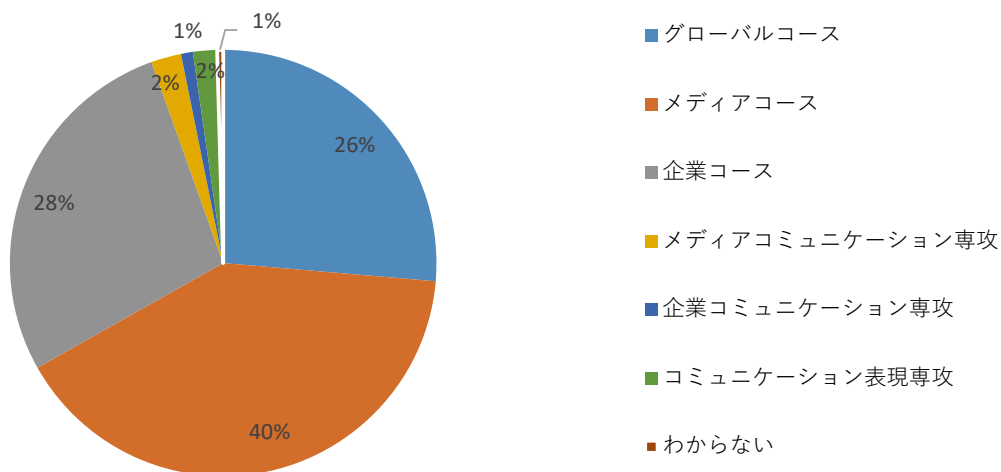
設問2 あなたはコミュニケーション学部にどのような試験制度で入学しましたか。



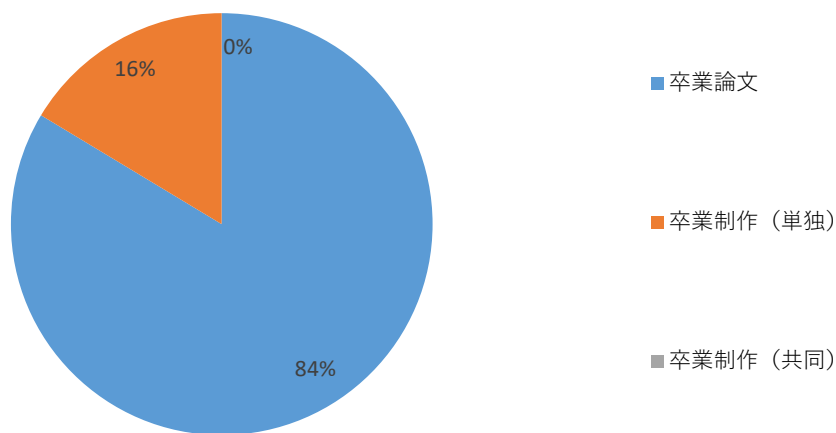
設問3 あなたの入学年度（編入学の方は編入学年度）はいつですか。



設問4 あなたは学部でどのコースまたは専攻に属していましたか。

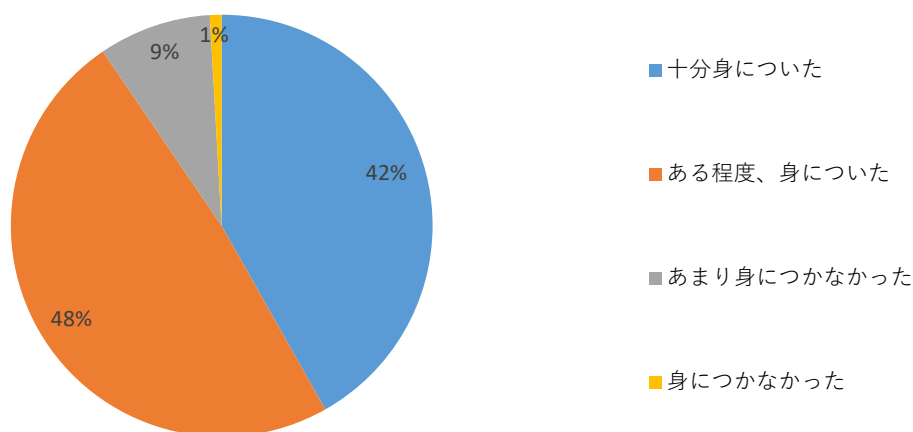


設問5 あなたは「卒業研究／卒業制作・卒業論文」をどの区分で提出しましたか。

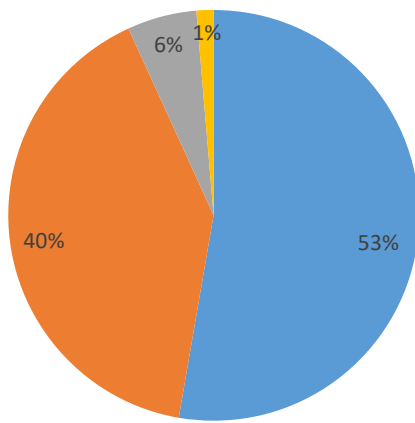


大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

設問6 「人間・社会・言語・自然」についての教養

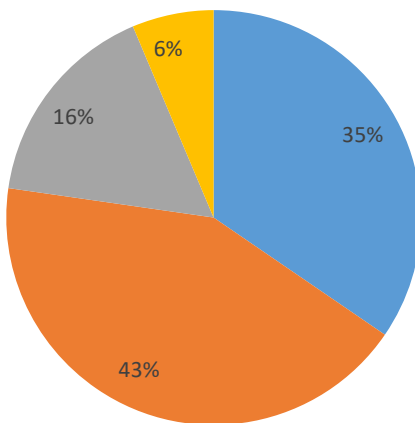


設問7 他者との対話力



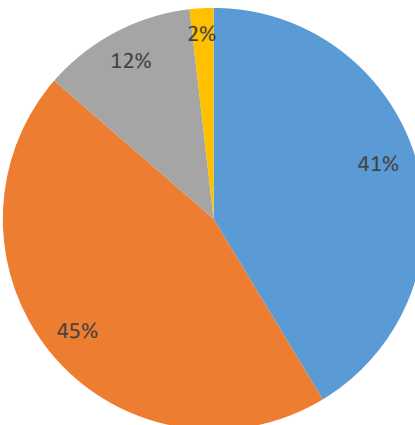
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問8 他文化との対話力



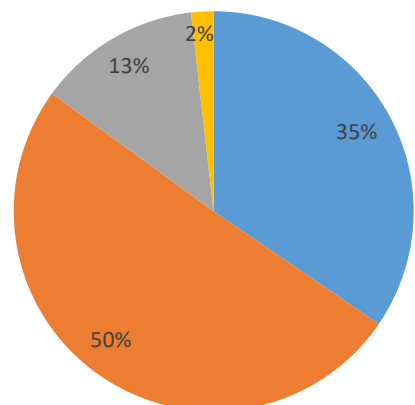
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問9 メディアに関する知識



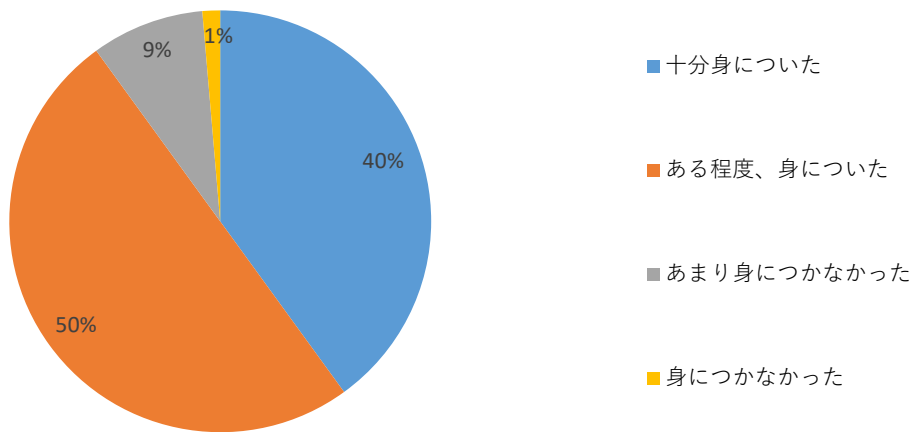
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問10 情報を分析・評価する能力

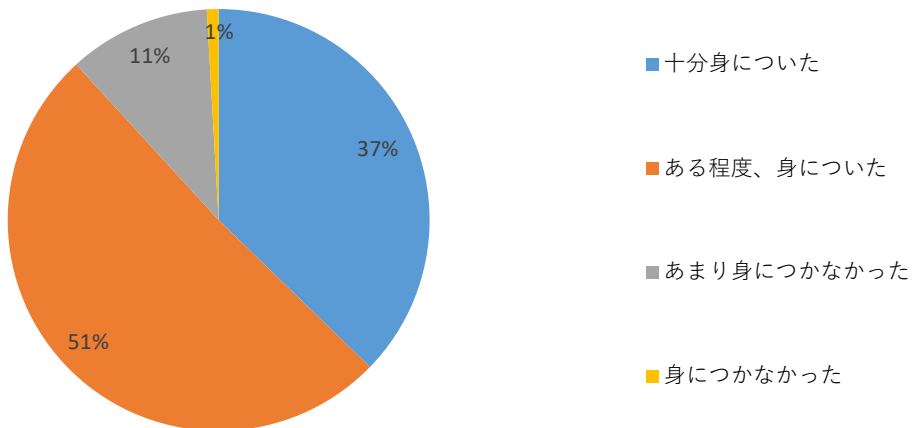


- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

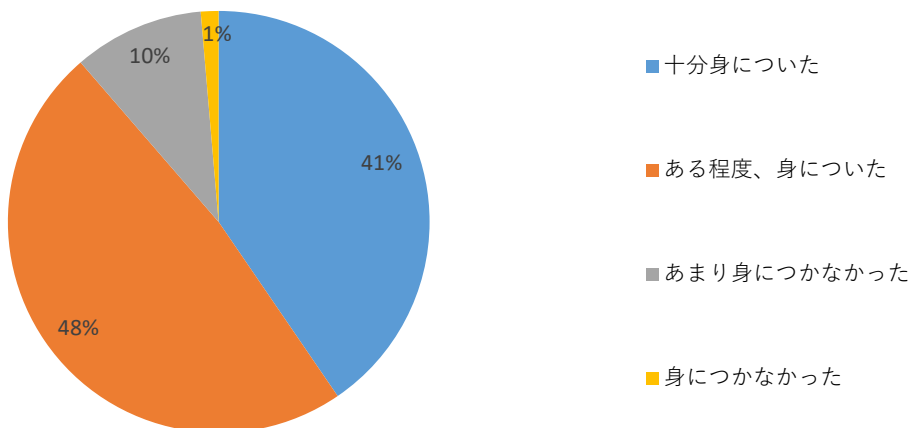
設問11 コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力



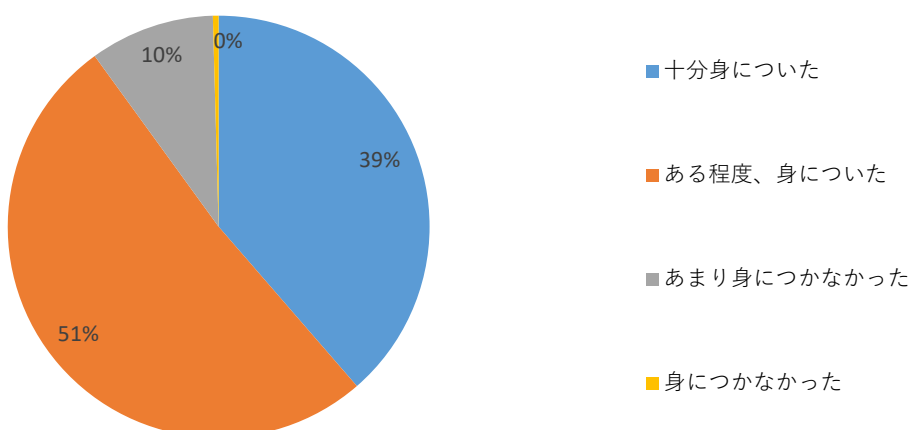
設問12 コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力



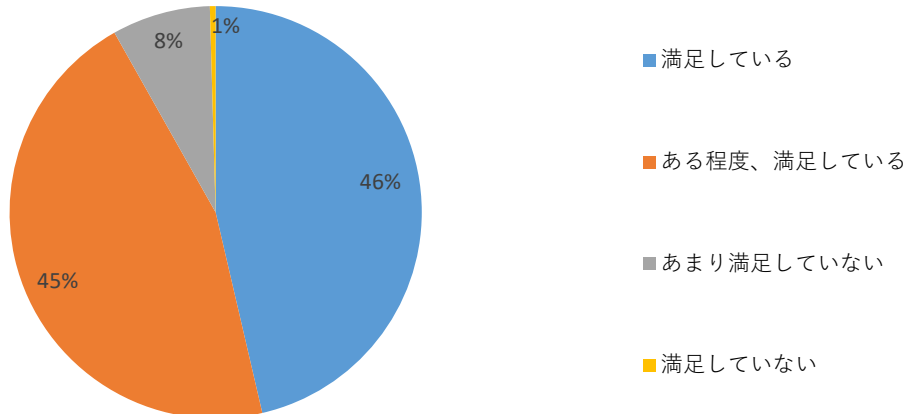
設問13 自分の考え・アイデアを表現する技能



設問14 自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能

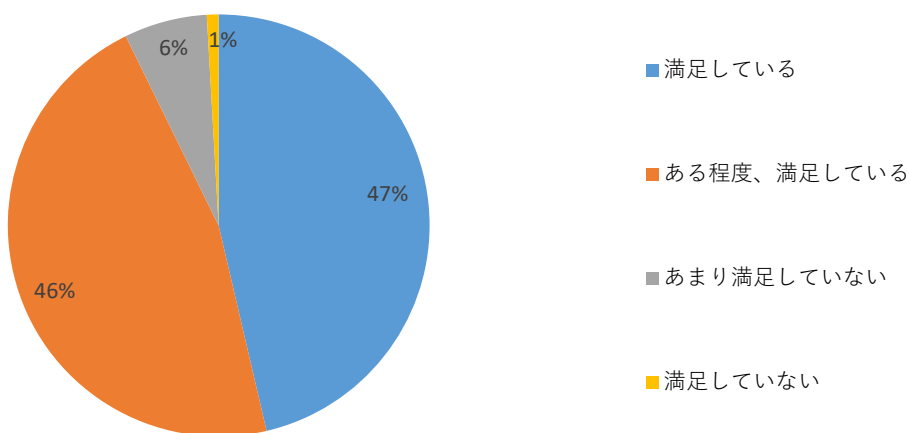


設問15 在学期間を振り返ってみて、あなたはコミュニケーション学部での学修にどの程度満足していますか。

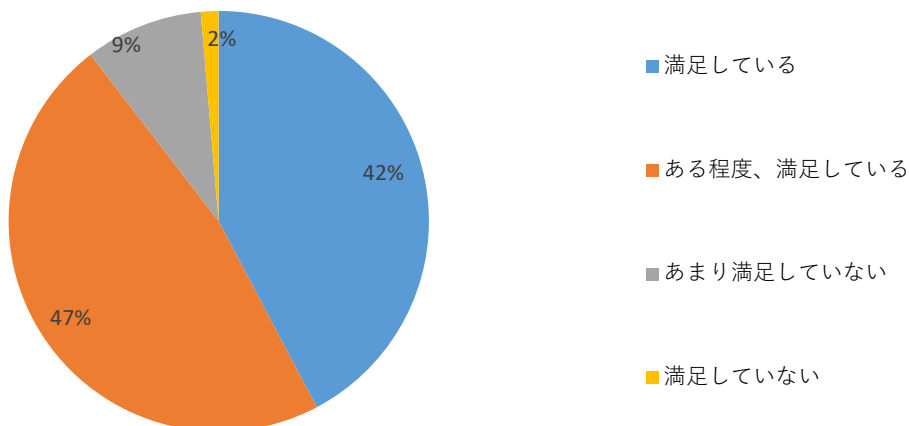


入学後の総合的な満足度として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

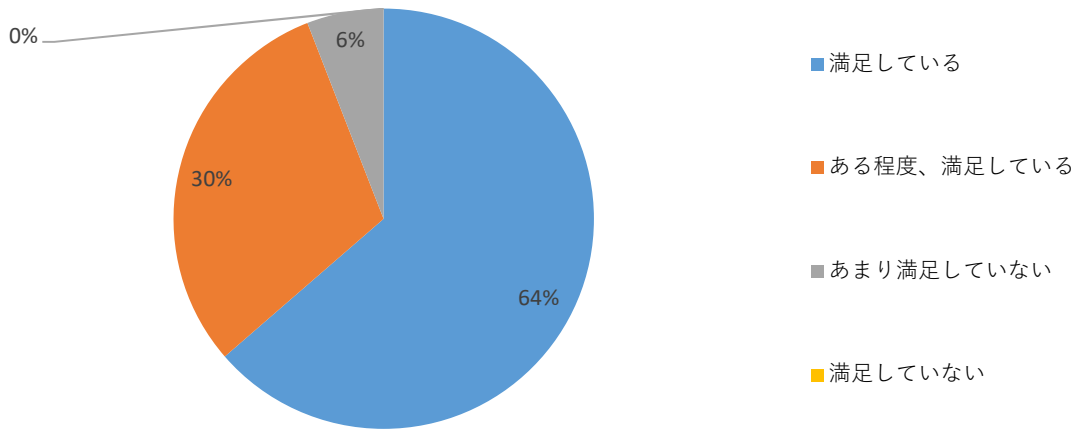
設問16 学部の専門分野 [講義科目] に関わる教育



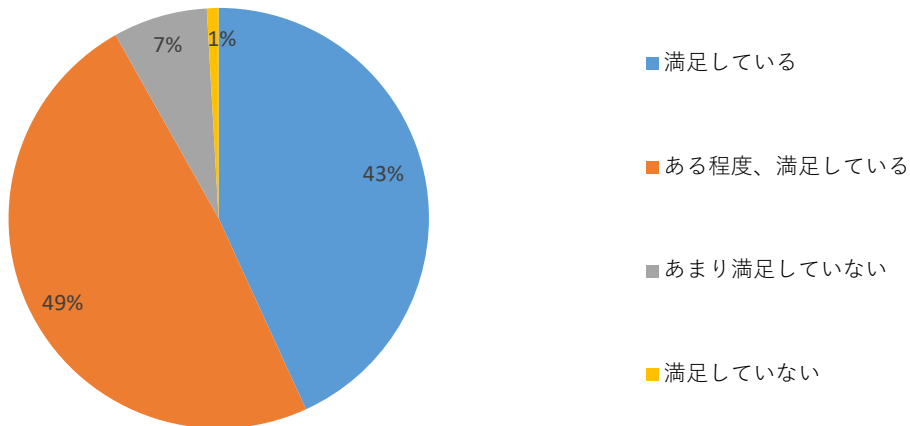
設問17 総合教育科目に関わる教育



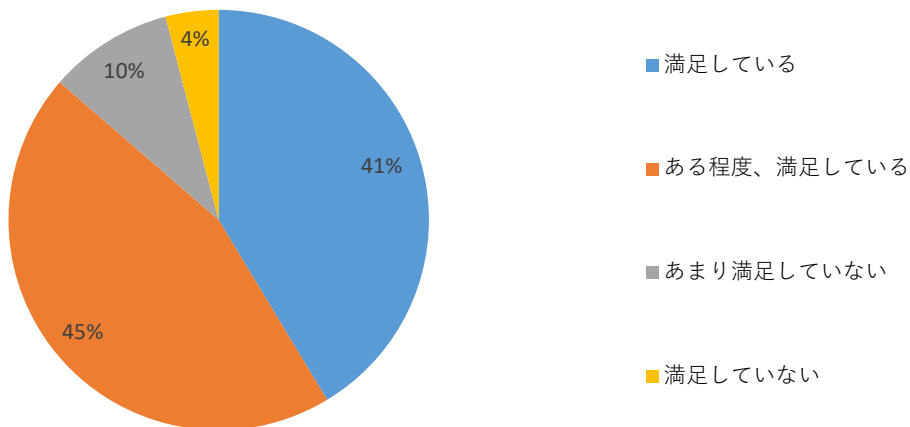
設問18 「演習」



設問19 カリキュラム全般



設問20 就職活動支援



【分析編】

2021 年度コミュニケーション学部卒業生に卒業時アンケートを、9 月卒業生には 2021 年 9 月 1 日～30 日に、3 月卒業生には 2022 年 3 月 1 日～30 日にかけてオンラインで実施した。合計 220 件（9 月卒業生 2 名、3 月卒業生 218 名）の回答があり、卒業生全体に占める比率は 88.0 パーセント（220/250）であった。本調査の主眼は、卒業時の学生が自身の 4 年間の学修成果をいかに感じているのか（成長実感）を可視化することであり、調査項目は当学部のディプロマ・ポリシー（以下 DP）に対応するかたちで作成されている。上記「大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価」が該当の項目である。以下、DP ごとに結果を確認する。

「人間・社会・言語・自然」についての教養」が、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に対応する評価項目である。教育課程上は、総合教育科目を中心に学修する内容である。「十分身についた」と回答した者が 42%、「ある程度、身についた」と回答した者が 48%であった。この 2 つを合計すると、ポジティブな自己評価を示した者が 90%と回答者のほとんどを占めたといえる。

「他者との対話力」および「他文化との対話力」は、DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力」に対応する評価項目である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、グローバルコース科目およびワークショップ科目を中心に学修する内容である。「他者との対話力」については、「十分身についた」が 53%、「ある程度、身についた」が 40%と、この 2 つの選択肢を合計した肯定的自己評価は 93%と非常に高い割合であった。一方、「他文化との対話力」は「十分身についた」「ある程度、身についた」をあわせて 78%と回答者の約 4 分の 3 に留まった。この 2 点の相違は 2020 年度にもみられたもので、「他者との対話力」は幅広い授業を通じて学修する内容であるのに対し、「他文化との対話力」は英語系ワークショップを中心とした少人数授業の一部での学修が中心となり、相対的に達成度が低くなったと考えられる。

「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」が、DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」に対応する項目である。基幹科目と展開科目の共通科目、メディアコース科目および表現系ワークショップ科目を中心に学修する内容として教育課程上に位置づけられている。それぞれ肯定的回答（「十分身についた」「ある程度、身についた」の合計）が 86%（メディア）、85%（情報の分析・評価）であった。この数字を見る限り、多くの学生の学修のなかで達成されていたことが確認できたといえるだろう。

「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」は、DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」に該当する項目である。教育課程上は基幹科目と展開科目の共

通科目、3つのコース科目、調査系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。これらの2つの項目では肯定的回答がそれぞれ90%（発見）、88%（分析・解決）であったことから、どちらも十分に高い達成度が示されたと判断できる。

「自分の考え・アイデアを表現する技能」および「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」は、DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」に該当する項目である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、企業コース科目、英語系・表現系ワークショップ科目、そして卒業研究を中心に学修する内容となっている。前者（表現する技能）の項目の肯定的回答は89%であった。また後者（伝達していくコミュニケーション技能）の項目の肯定的回答は90%であった。これらのことから、DP5についても高い水準で達成できていたと卒業生は自己評価していたと判断できるだろう。

また、入学後の総合的な満足度について、「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」「総合教育科目に関わる教育」「演習」「カリキュラム全般」「就職活動支援」の5項目を尋ねた。肯定的回答（「満足している」「ある程度、満足している」の合計）は「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」で93%、「総合教育科目に関わる教育」で89%、「演習」で94%、「カリキュラム全般」で92%、「就職活動支援」で86%であった。専門教育に対する満足度についてはどちらも93%（講義）、94%（演習）の肯定的回答が得られており、高い満足度が示されたといえるだろう。特に「演習」については「満足している」の回答の割合が64%と肯定的回答の約3分の2をしめており、例年に引き続き高い満足度が得られていたと判断できる。

総括すると、2021年度コミュニケーション学部卒業生は、コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーを4年間で多くが達成したと自己評価していたといえるだろう。また、教育課程に対する満足度もいずれの点についてみても十分に高かったといえるだろう。このように2021年度卒業生の多くは3年次、4年次をコロナ禍で過ごしたが、卒業時アンケートの結果からは過年度と大きな差はみられなかったが、2022年度卒業生の多くはコロナ禍での専門教育を受けた学年となるため、2022年度卒業時アンケートの結果についてはその点も加味して検討する必要があるだろう。

【現代法学部】2021年度卒業時アンケート

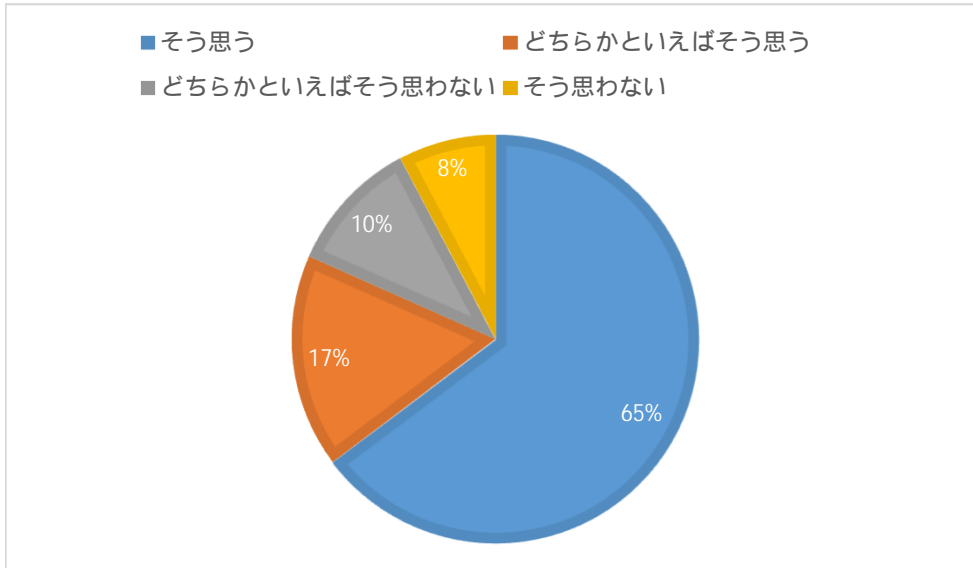
調査対象：2021年9月卒業生 9名、2021年度3月卒業生 232名

調査期間：2021年9月1日～9月30日、2022年3月1日～3月31日

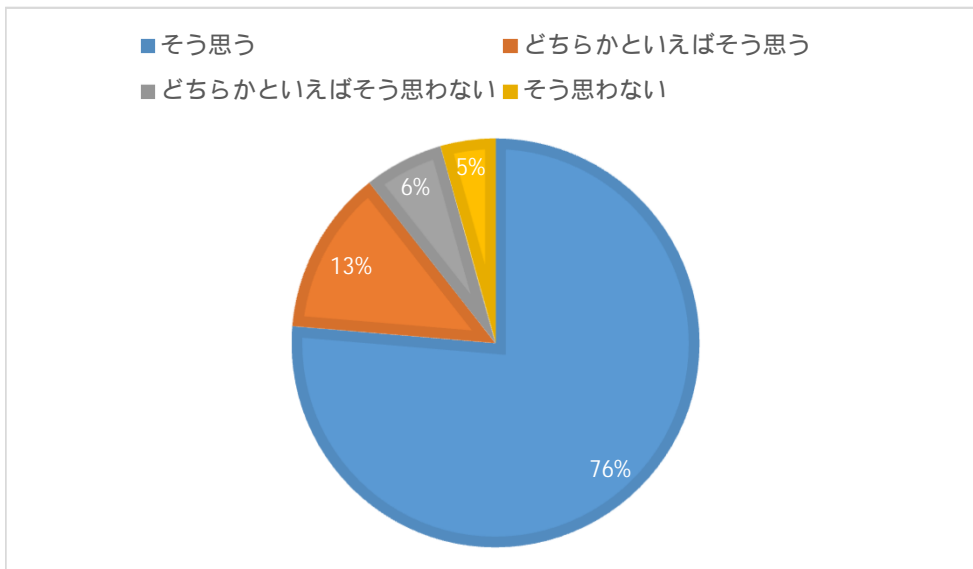
回答数：207件

回答率：89.2%

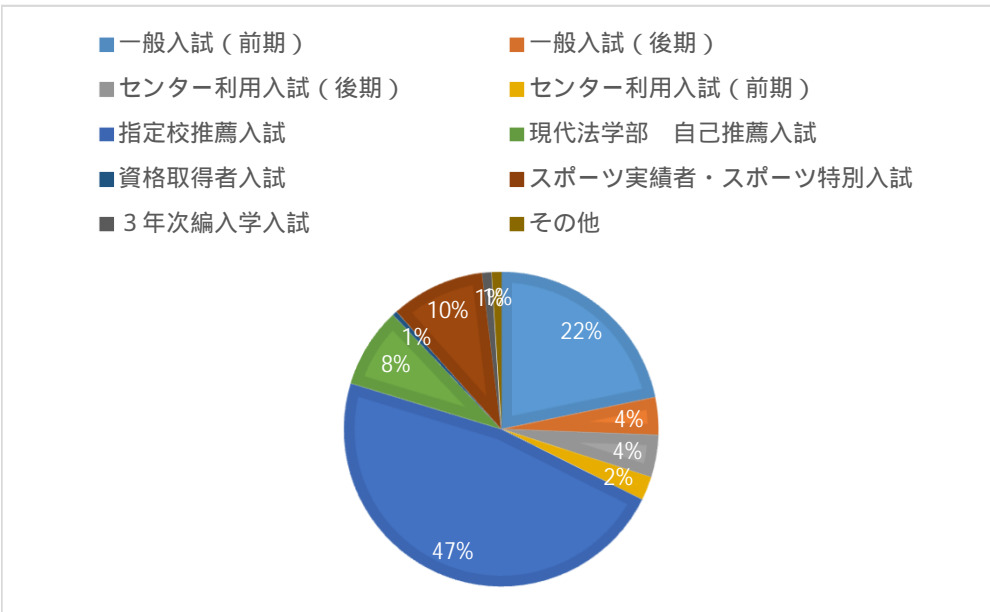
Q1.東京経済大学は入学を希望していた大学でしたか？



Q2.現代法学部は希望していた学部でしたか？

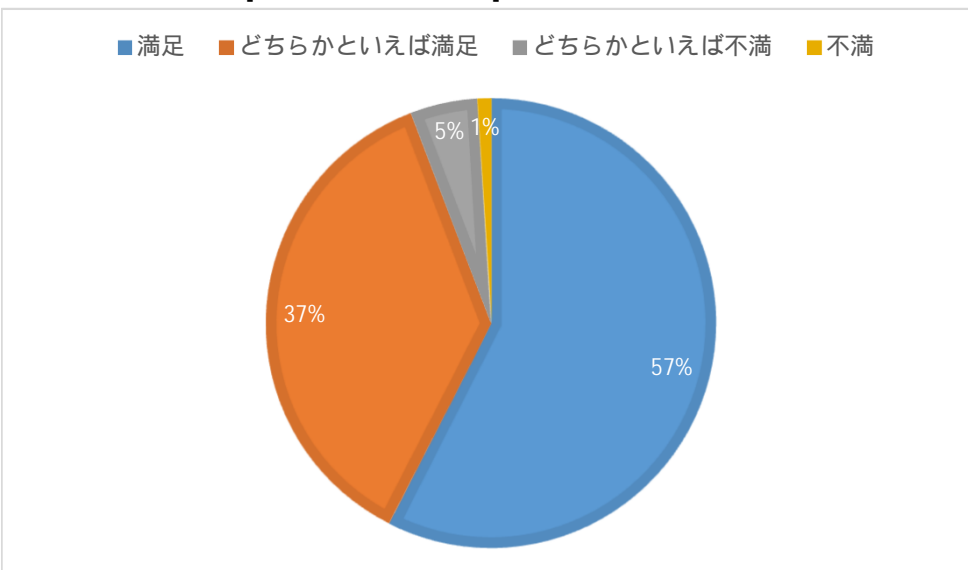


Q3.あなたが入学を決めた際の入試種別を教えてください。

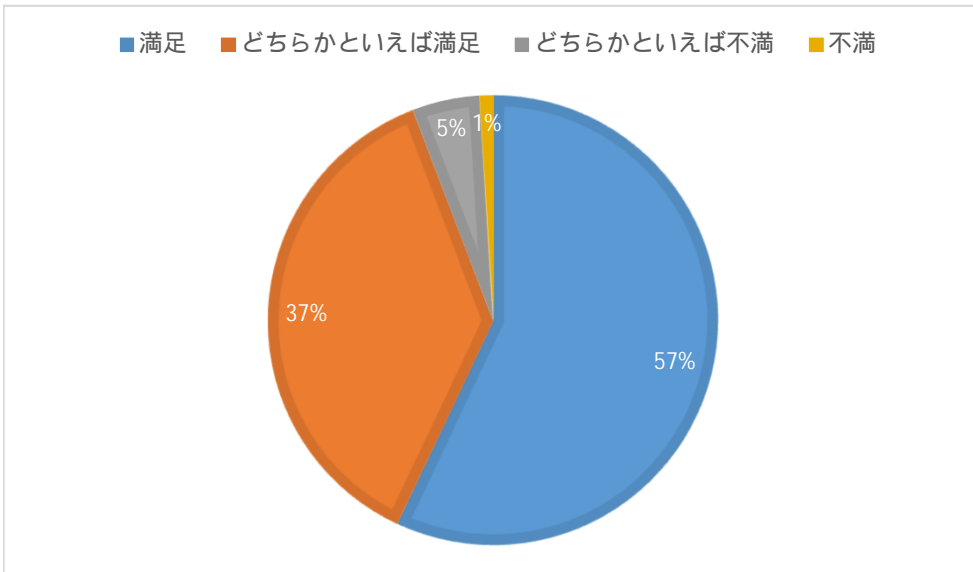


Q4.入学後の総合的な満足度をお答えください。

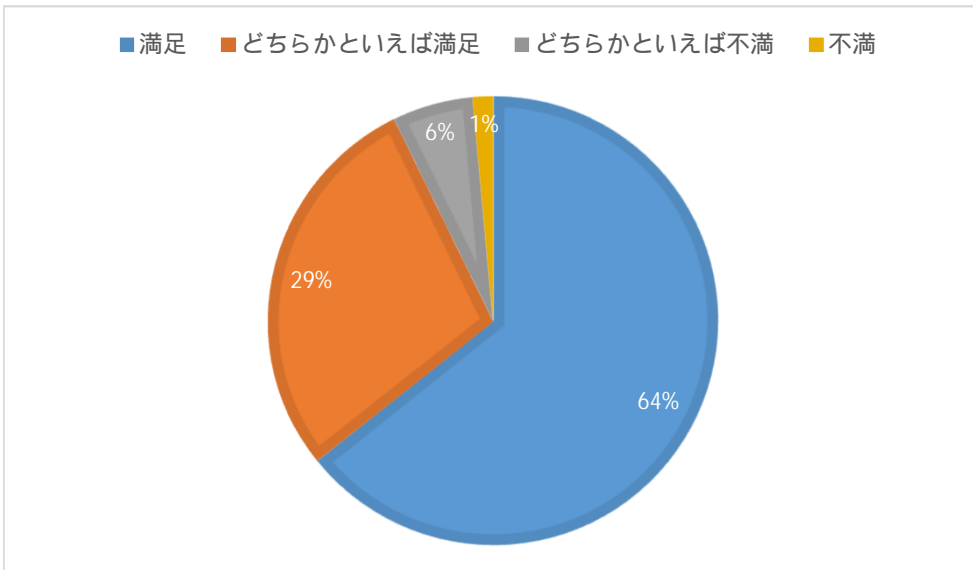
学部の専門分野[法律、政治・行政]に係る教育



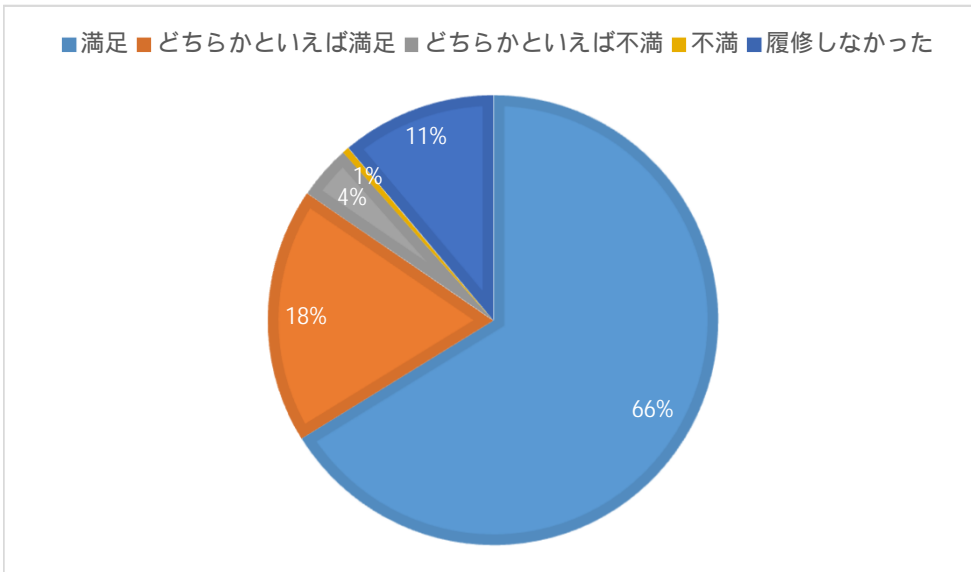
総合教育科目に係る教育



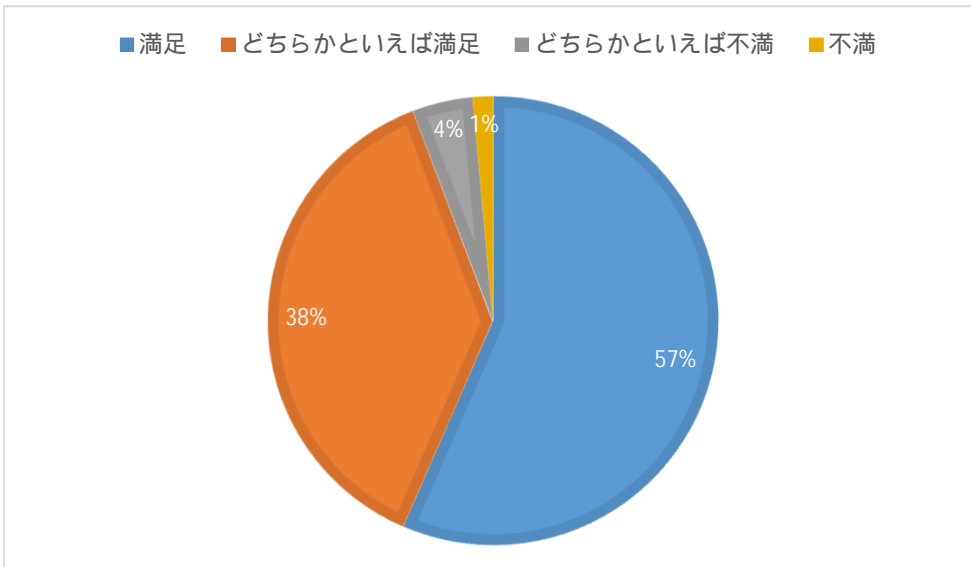
「演習以外の演習系科目（大学入門、社会・法学入門、基礎演習 ・ ）」



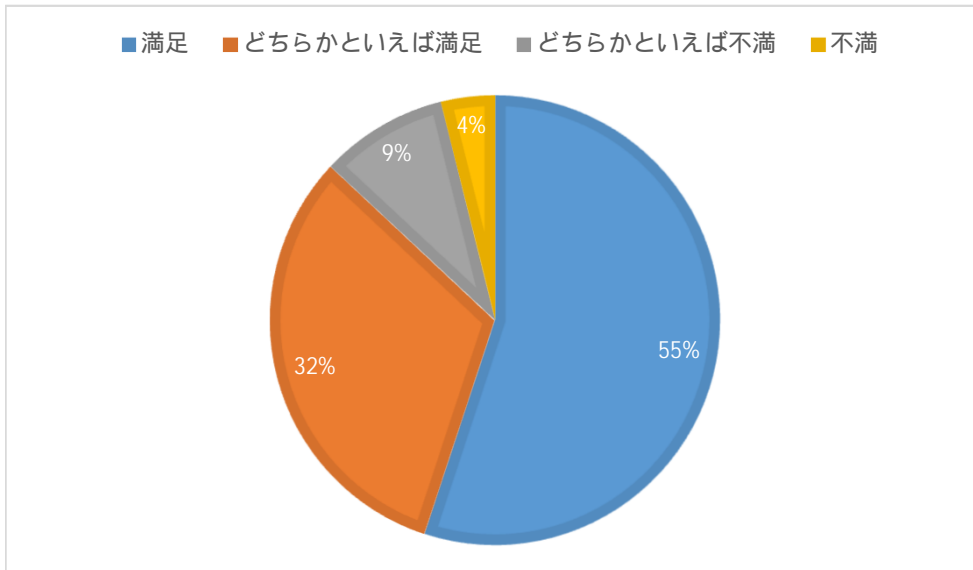
演習



カリキュラム全般



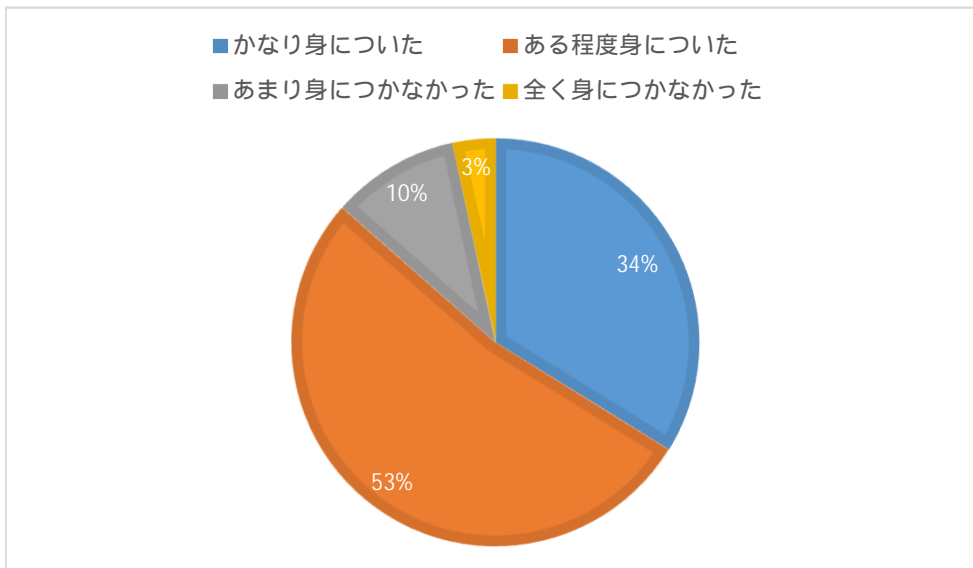
就職活動支援



Q6.次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

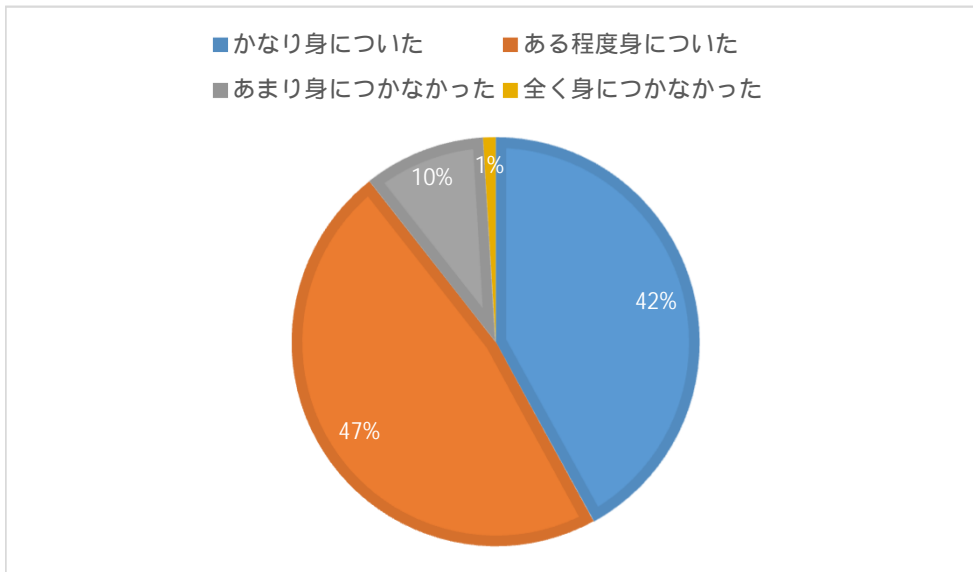
幅広い教養：

多様な文化、歴史および自然に関する幅広い教養と外国語を身に付けて、
持続可能な地球社会の形成に主体的に関与できる能力



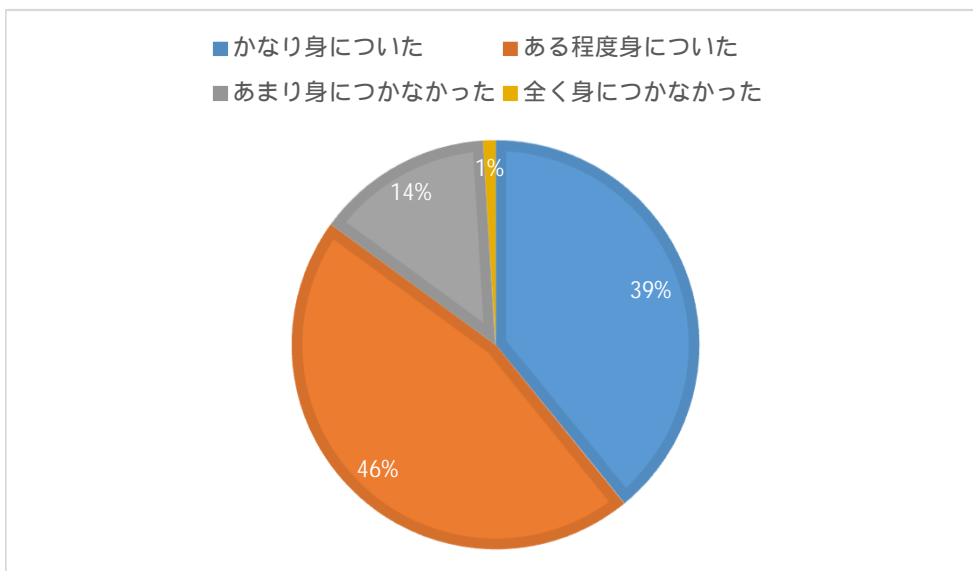
専門知識：

現実の社会問題に触れながら、法と政策に関する専門知識を適切に習得し、社会を多角的に考えることができる能力

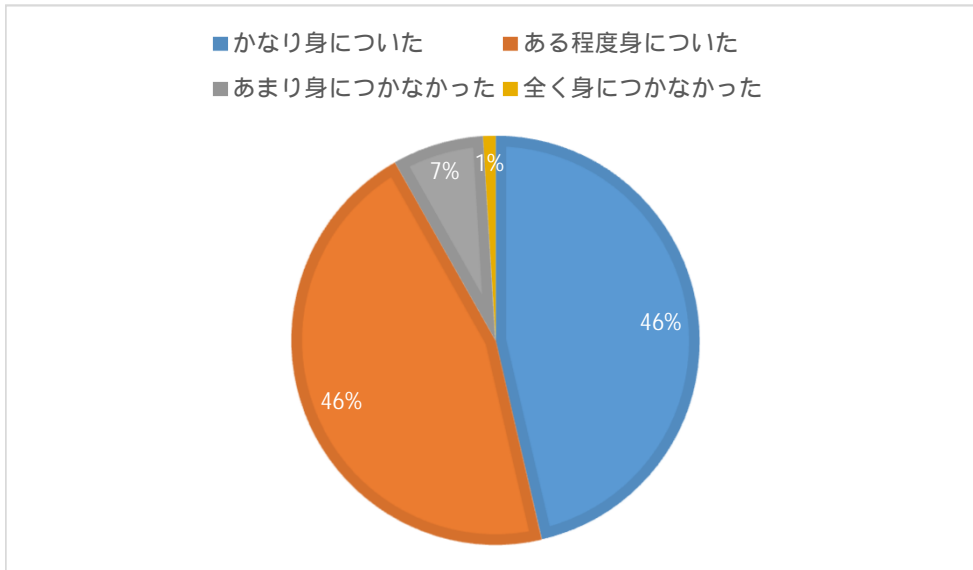


専門知識の活用力：

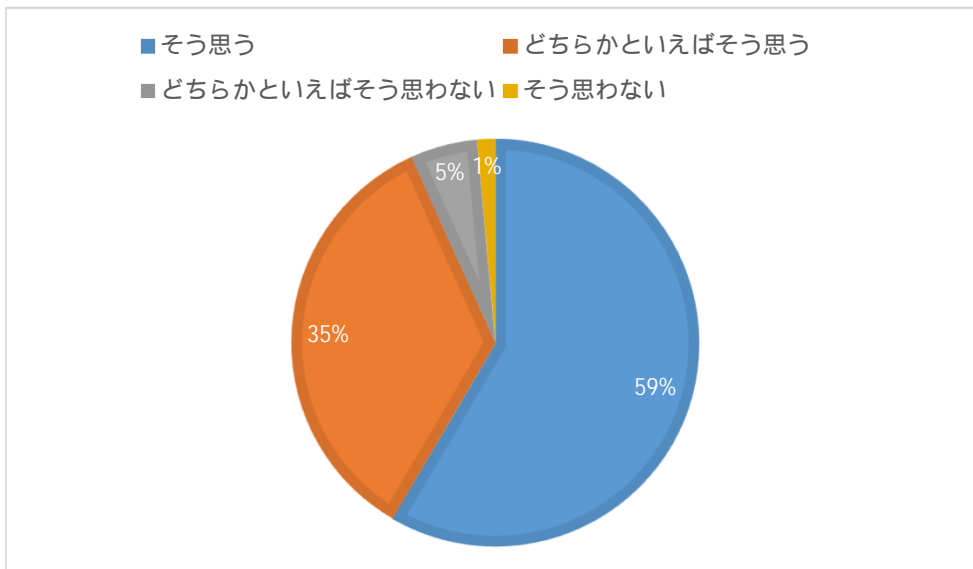
法と政策に関する専門知識と思考方法を活かし、社会における諸問題を発見し、課題の本質を考察して解決に導くことができる実践的能力



総合的な判断力と行動力：
問題解決に必須の論理的思考とコミュニケーション力に裏付けられた
総合的な判断力と行動力



Q7.入学前と比較して、「東京経済大学はよい大学だ」という思いは強まりましたか？



【分析】

現代法学部は、2021年9月1日から9月30日、2022年3月1日から3月31日にかけて、2020年度現代法学部卒業生に卒業時アンケートを実施した。総回答数は、207件であった（卒業生全体に占める割合は、89.2%である）。本アンケートの主たる目的は、卒業時における学生の「満足度」を図るとともに、4年間の学習での「達成度」を可視化することである。後者の「達成度」について、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じたかたちで、それぞれアンケート調査を行っている。以下では、総合的な「満足度」について検討した上で、ついで「達成度」について分析を試みる。

総合的な「満足度」については、学部の専門分野〔法律、政治・行政〕にかかる教育、総合教育科目にかかる教育、演習、カリキュラム全般および就職活動支援の5項目に細分化して、調査を行った。各調査項目につき、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計すると、92.4%、95.4%、81.3%、95.0%および84.4%となり、演習および就職活動支援を除き、90%を上回る満足度が得られていることが示された。このうち、満足度90%を下回った演習については、履修しなかったとの回答を除くと、「満足度」は95.5%となり、演習を履修した学生については、概ね満足が得られていると見てよいと思われる。また、同じく90%を下回った就職活動支援についても、約5ポイント下回ってはいるが、概ね満足は得られたと見てよいと思われる。に関する自由記載欄では、概ね好意的な意見が多い。他方で、公務員志望者に対する支援に対して、不満を示す意見もあり、公務員志望者に対する支援について、今後の検討課題としたい。

4年間の学習での「達成度」については、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じて、幅広い教養（DP1）、専門知識（DP2）、専門知識の活用（DP3）および総合的な判断力と行動力（DP4）の4つの項目につき、アンケートを実施した。

幅広い教養（DP1）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、77.1%であった。卒業時における成長実感としては、概ね達成されているものと思われる。しかし、「かなり身についた」が22.9%であるのに対し、「ある程度身についた」が54.2%と大幅に上回っており、かつ、と比べると、「あまり身につかなかった」が19.1%となっていることから、同項目については改善の余地があることが伺われる。

専門知識（DP2）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、89.3%であり、高い成長実感があったことが示される。もっとも、と同様に、「ある程度身についた」割合が、54.6%とかなりの比重を占めていることを鑑みると、改善の余地があると思われる。

専門知識の活用（DP3）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、86.3%であり、高い成長実感があったことが示された。もっとも、と同様に、「ある程度身についた」割合が、59.9%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

総合的な判断力と行動力（DP4）については、「かなり身についた」、「ある程度身につ

いた」を合計すると、90.5%であり、高い成長実感があったことが示された。もっとも、
～と同様に、「ある程度身についた」割合が、56.9%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

以上の結果を総合的にみるならば、卒業時アンケート回答者は、総じて高い満足度を得ており、また、4年間の学習での達成度についても、比較的高い成長実感をもっていたことが示されていることから、現代法学部のディプロマ・ポリシーは、所々改善の余地はあるものの、その目的をかなり高い程度で達成したものと評価することができる。

以上